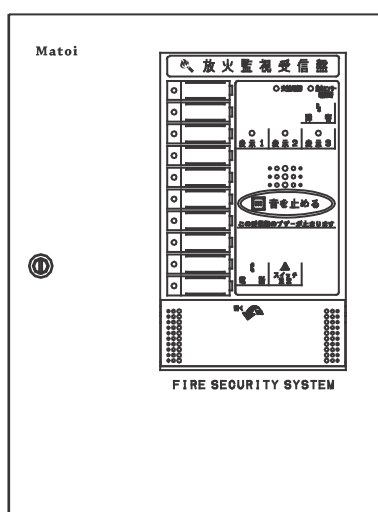


放 火 監 視 受 信 盤

PCP-10型

取扱説明書



目次

はじめに	1
定期点検、定期交換部品	2
各部の名称	3
システム構成と放火警報時の対応	5
■システム構成■	5
■放火警報が発生したら■	6
■放火警報時の操作■	7
■放火警報時の動作■	8
他設備からの諸表示信号入力時の動作	9
平常状態	10
保守・点検・障害検出	11
■診断・試験機能について■	11
■自動診断機能■	12
■手動試験■	12
■試験時や保守点検時便利な機能について■	15
停止設定について	15
試験復旧について	16
電話について	17
■施工について■	18
異常が発生したら	19
回路図	20
仕様表	21

はじめに

このたびは、PCP-10型放火監視受信盤をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。この取扱説明書は製品を正しくお使いいただくための注意事項や、基本的な取扱方法、操作手順などを説明しています。この取扱説明書をよくお読みになり、内容を十分理解されてから、製品をご使用ください。取扱説明書はいつも手元におき、紛失されないようご注意ください。また、工事に関しては、工事説明書をお読みください。

おことわり

本製品を使用したシステムは、放火センサーからの信号を受け、音響警報や各種移報信号などの警報を発するもので、放火自体の発生を防止したり消火をおこなうものではありません。また、この取扱説明書に記載されている使用方法以外をおこなった場合、発生した事故等には一切責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

安全に正しくお使いいただくために

本製品を正しくお使いいただくため、この取扱説明書にはいろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。あなたや他の人々への危害を未然に防ぐため、内容をよく理解した上で本文をお読みください。

 警告	この表示を無視して誤った取扱をすると、使用者が重傷や傷害を負うか、機能の一部に重大な悪影響を及ぼすことが想定される場合を表しています。
 注意	この表示を無視して誤った取扱をすると、使用者が傷害を負う可能性が想定される場合、及び物的損害のみの発生が想定される場合を表しています。
	「禁止」を表しています。
	「必ずおこなう」を表しています。

 警告	
	機器を分解したり、本体内部に手を触れないでください。感電や故障の恐れがあります。
	許容範囲を越えた高温の場所や、腐食性ガスの発生する所、雨水等のかかる所では使用しないでください。機器の故障や発火の原因となります。

 注意	
	必ず定期点検をおこなってください。放火発生時に正常に機能しない恐れがあります。
	受信盤の回りに物を置かないでください。緊急時の操作に支障をきたします。
	受信盤に放火の表示がされた場合はその原因を確認してください。不明の場合は専門業者に点検を依頼してください。

定期点検、定期交換部品

放火監視設備は、予期しない放火という状況を早期に発見し、関係者に知らせるものです。
設備全体が正常な状態で維持されるように、定期的な点検をおこなう必要があります。

点検の内容

以下の表に基づき、点検をおこなってください。

〈点検概要〉

点検項目	点検の種類	点検の期間(周期)
放火監視設備	外観点検および、機能点検	6ヶ月
	総合点検	1年
配線	総合点検	1年

定期点検の記録

放火監視設備の適切な維持・運用をおこなうためにも点検内容の結果について記録することをお勧めいたします。

定期交換部品

放火監視受信盤に搭載されている電源（REG1）には寿命があります。5年を目安に交換してください。放火センサーが正常に動作しなくなる場合があります。

点検契約のお勧め

保守点検には機能保全のため、点検契約をお勧めいたします。
放火監視設備の点検には、専門的な知識が必要であり、また、専用の各種点検器具や測定器などもあります。定期点検につきましては、弊社または取扱店と点検契約を結び、専門家による点検を実施していただきますようお願いいたします。

各部の名称

●盤内操作・表示部

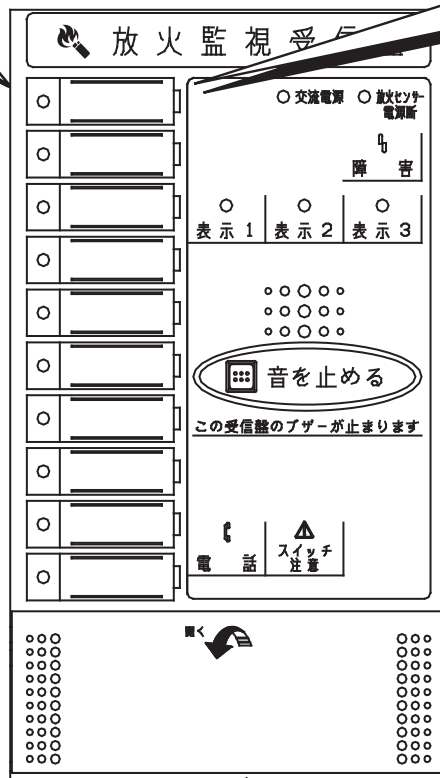
- 警報音響停止スイッチ
障害警報・諸表示信号警報の音響を完全に停止します。(P. 16参照)

●ヒューズ断灯

FBヒューズ、またはFIヒューズが切れているとき、赤色に点灯します。(P. 12参照)

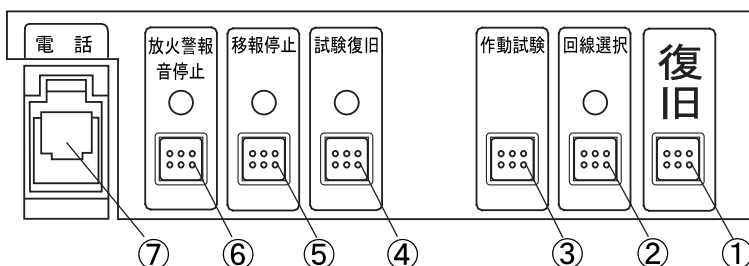


Matoi



FIRE SECURITY SYSTEM

●盤面小扉内スイッチ(保守点検用)



①復旧スイッチ (P. 7参照)

受信盤を平常状態に戻すとき使用します。

②回線選択スイッチ (P. 14参照)

個別作動試験をおこなう回線を選択します。

③作動試験スイッチ (P. 13, 14参照)

全回線作動試験または個別作動試験を実行します。

●放火表示部



●地区表示灯

放火センサーが作動すると地区表示灯が赤色に点滅、障害があると黄色に点滅、回線選択中は黄色に点灯します。

●放火代表灯

放火センサーが作動すると赤色に点滅します。

●主操作部

●本体ブザー

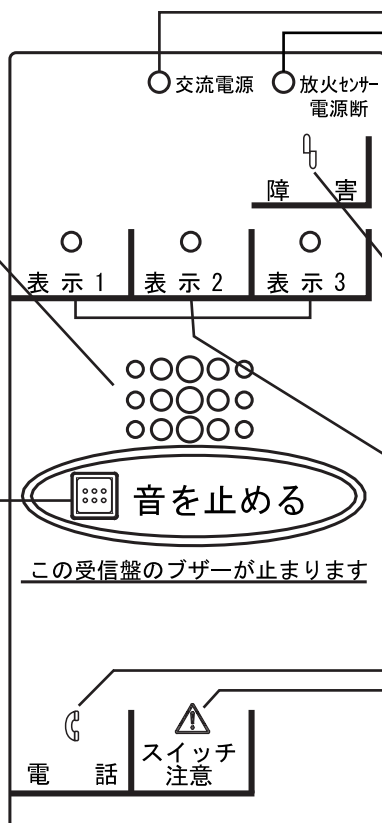
下記の場合に警報音が鳴ります。

- ・放火警報時：ピー
- ・障害及び諸表示警報時：ピーピー
- ・電話呼び出し時：ピーピー

〈操作部〉

●音を止める (P. 7参照)

ブザーの鳴動を停止させます。



〈表示灯部〉

●交流電源灯

交流電源 (AC100V) で動作中、緑色に点灯します。

●放火センサー電源断灯

放火センサー電源に異常がある場合、点滅します。

●障害代表灯 (P. 12, 19参照)

受信盤、放火センサーなどに異常が発生したとき黄色に点灯します。

●諸表示灯1～3 (P. 9参照)

他設備からの諸表示信号受信時、赤色に点灯します。

●電話灯 (P. 17参照)

電話呼び出し時赤色に点灯します。

●スイッチ注意灯 (P. 15, 16, 19参照)

ロック機能のスイッチのいずれかが押されているとき、赤色に点滅し、注意を促します。

④試験復旧スイッチ (P. 16参照)

保守点検時放火発報自動復旧に設定します。自動復旧のモードにより「通常」「特殊」の2種類があります。

⑤移報停止スイッチ (P. 15参照)

他設備への移報信号出力を停止します。

⑥放火警報音停止スイッチ (P. 15参照)

放火主音響を完全に停止します。

⑦モジュージャック (P. 17参照)

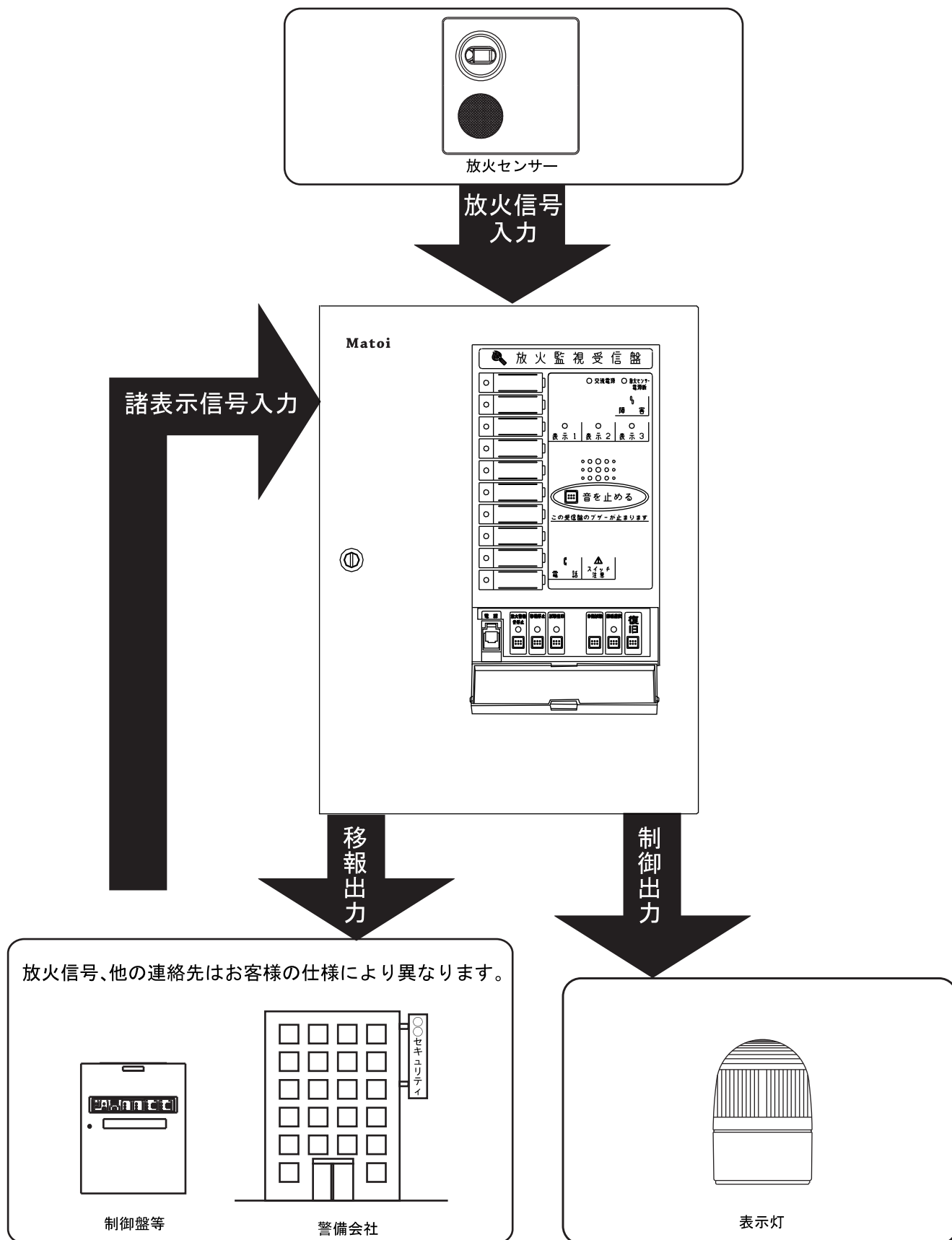
受信機用電話器を差し込むと、現地側の電話器と通話ができます。



システム構成と放火警報時の対応

■ システム構成 ■

本製品は放火センサーからの信号を受けて放火受信地区を表示し、本体の音響装置を鳴らすと同時に他設備へ移報信号を出力します。また、他設備からの信号を受けて警報表示をおこなうこともできます。

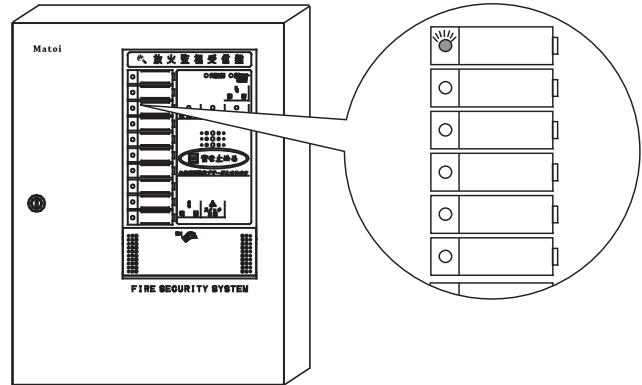


■ 放火警報が発生したら ■

- ① 放火監視受信盤の点滅表示で、どの地区で放火警報が発生したかを確認してください。

〈チェックポイント〉

- 人がいる場所か
- 危険物がある場所か



- ② 消火器などを持って現場に急行し、状況を確認してください。

〈チェックポイント〉

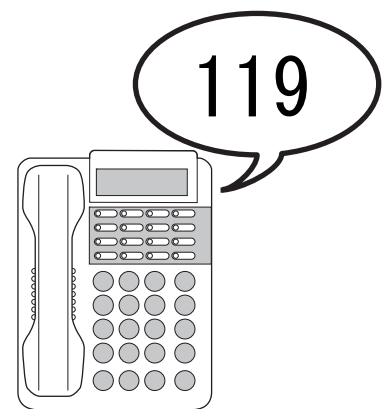
- 放火発生場所はどこか
- 何が燃えているのか
- 火災の現場状況、拡大状況はどうか
- けが人、逃げ遅れはいるか
- 付近に危険物はあるか



- ③ 火災であることを確認したら、消防署(119番)に通報してください。

〈消防署への通報内容〉

1. 火事です。
2. 住所、建物名称
3. 電話番号
4. 建物概要、火災発生場所
5. 火災状況、負傷者の有無
6. 負傷者のいる場合は救急車を呼ぶ。



- ④ 状況に応じて初期消火、避難誘導など適切な処置をしてください。

〈チェックポイント〉

- 小さな火事は、消火器、消火栓で消火する。
- 警戒区域図(建物図面)を用意する。
- 消防隊へ状況を報告する。
- 状況に応じて避難誘導する。

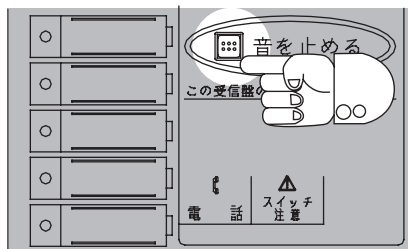


■ 放火警報時の操作 ■

状況確認の結果、放火でなかったとき(※)や初期消火により完全に鎮火したときは、以下の操作を行い、放火警報を停止してください。

※放火センサーは、放火でなくても溶接時の火花、殺菌灯等で作動する場合があります。

本体ブザーの音を止めるとき(音を止める)



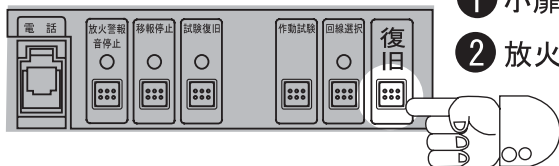
- 1 「音を止める」と書かれたスイッチを押します。再度、放火警報が発生するまで本体ブザーは止まります。(他の地区からの放火警報が発生すると本体ブザーが再び鳴ります。)

放火警報状態を平常状態に戻すとき(放火復旧)

⚠ 注意

- ⊘ 不審火の鎮火前に機器の復旧操作は行わないでください。状況が正確に把握できなくなります。

不審火の鎮火、放火発報の原因が解消していたら、平常状態に戻してください。
放火センサーが不審火を感知している状態(モニター灯が点灯している時)では、復旧できません。

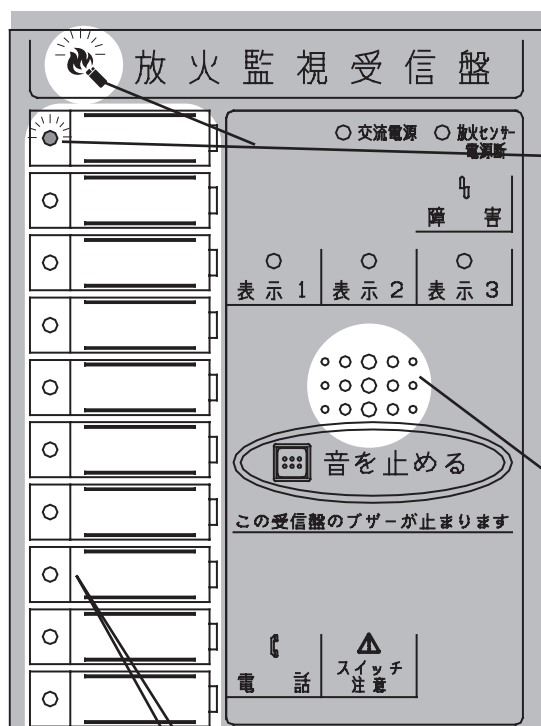
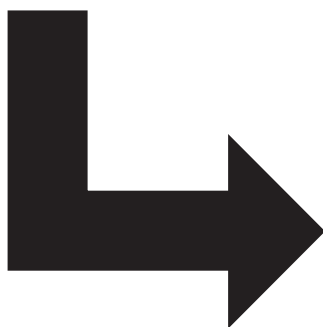
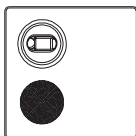


- 1 小扉内の復旧スイッチを押します。
- 2 放火代表灯、地区表示灯が消灯し平常状態に戻ります。

■ 放火警報時の動作 ■

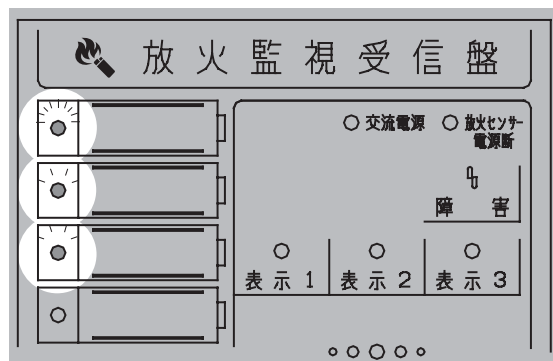
放火センサーが不審火を感知したとき

放火センサー



複数の地区表示灯が点滅した場合

複数の地区で放火警報が発生しています。このとき、最初に放火警報が発生した地区の地区表示灯は他よりも早く点滅します。

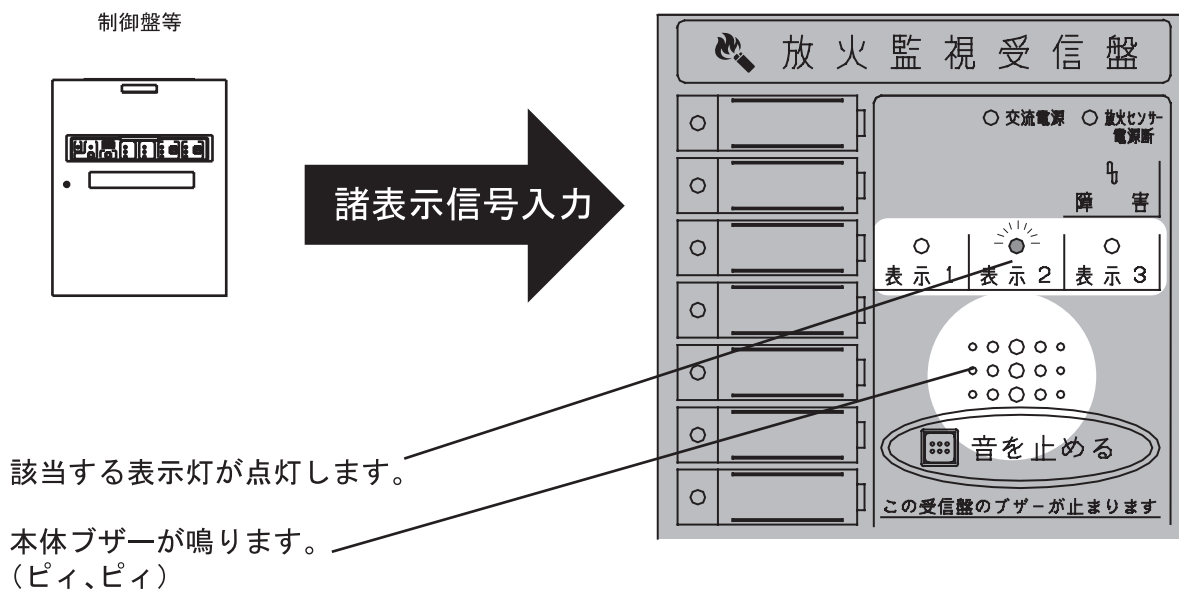


他

設備からの諸表示信号入力時の動作

本製品は、他設備からの諸表示信号入力によって、最大3点まで盤面に警報表示をおこなうことができます。

他設備からの諸表示信号入力

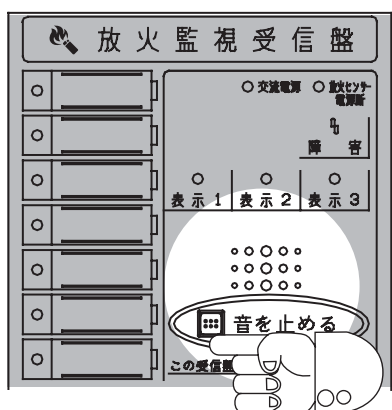


本体ブザーの音を止めるとき（音を止める）

「音を止める」と書かれたスイッチを押します。

あらたに、他設備からの諸表示信号入力があると、本体ブザーが再び鳴ります。

（システムの障害検出をしたときにも再び鳴り出します。）



次の場合には、本体ブザーは鳴りません。

- 受信盤内部のスイッチで「諸表示音響なし」に設定されているとき
- 受信盤内部の警報音響停止スイッチが停止側になっているとき (P. 16参照)

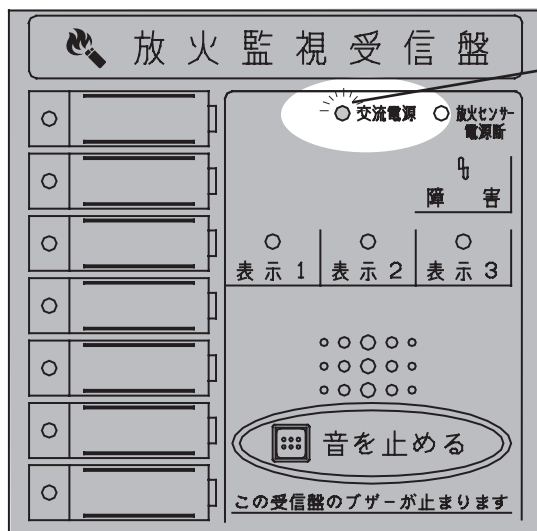
■放火警報時には、放火警報音を優先するため、諸表示警報音は鳴りません。

平常状態

放火が発生したとき、本製品が正常に放火警報をおこなうことができるように下記の状態であることをお確かめください。

交流電源の確認

本製品は、交流電源 (AC100V) にて放火監視をおこなっています。



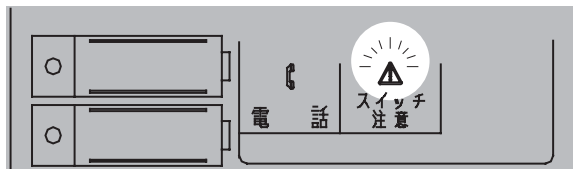
動作中は、交流電源灯が緑色に点灯しています。

スイッチ状態の確認

本製品は、各スイッチによって停止設定をおこなうことができます。



⚠ 平常時、スイッチは定位状態で使用してください。停止設定の状態では放火発生時に避難、消火活動が大幅に遅れる危険があります。



● 平常時は、スイッチ注意灯が点滅していないことを確認してください。(P15, 16参照)

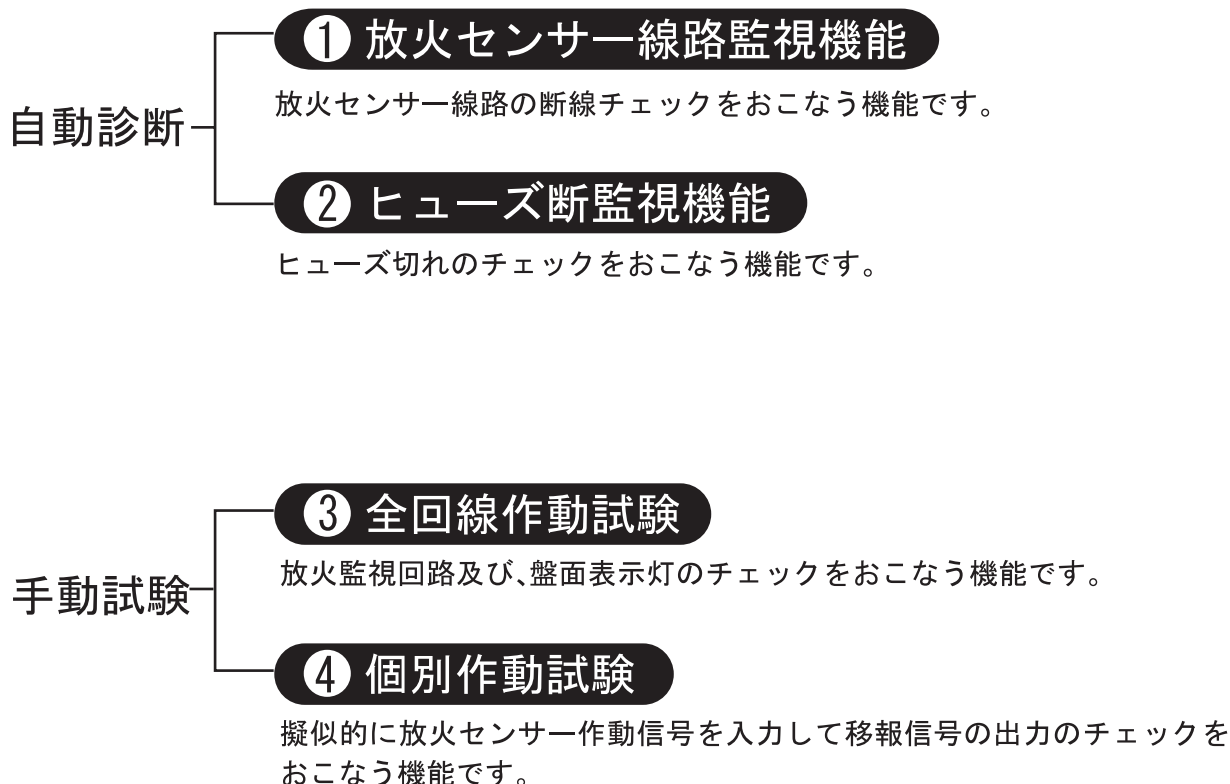
保守・点検・障害検出

■ 診断・試験機能について ■

本製品は、自動診断や手動試験で各機能が正常であることをチェックすることができます。

⚠ 注意

- ❗ システム全体が正常に作動することを確認するために、放火センサーなどを実際に動作させて試験をおこなってください。全回線試験や個別作動試験だけでは放火センサーの動作チェックはおこなえません。



⚠ 注意

- ❗ 個別作動試験では、実際の放火発生時と同様に移報信号の出力をおこない、本体ブザーが鳴りますので必要に応じて停止設定をおこなってください。(P. 15参照)
試験終了後は各停止設定を解除して平常状態に戻してください。

■ 自動診断機能 ■

① 放火センサー線路監視機能

放火センサー線の線路監視を常時おこなっています。

放火センサー線が断線している場合には、障害回線の地区表示灯が黄色に点滅、障害代表灯が黄色に点灯して本体ブザーより障害警報を鳴らします。通常、放火センサー線断線状態が10秒以上継続しないと障害警報しません。試験復旧スイッチにより即時障害警報することもできます。(P. 16参照)

〔異常が発生したら P. 19参照〕



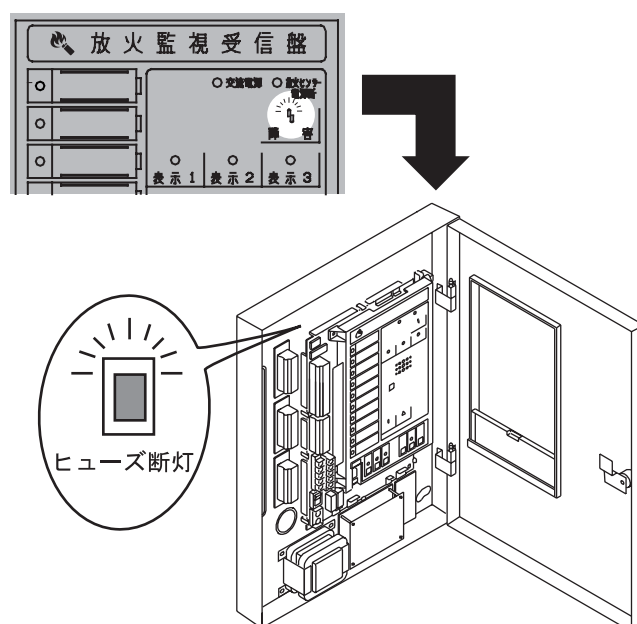
② ヒューズ断監視機能

付属電源1用ヒューズ(FI)、放火センサー用電源ヒューズ(FS1、FS2)の断線監視を常時おこなっています。

FIヒューズが熔断していると障害代表灯が黄色に点灯、ヒューズ断灯(盤内)が赤色に点灯して本体ブザーより障害警報を鳴らします。

FS1、FS2ヒューズが熔断していると障害代表灯が黄色に点灯、放火センサー電源断灯が赤く点滅して本体ブザーより障害警報を鳴らします。

〔異常が発生したら P. 19参照〕



■ 手動試験 ■

③ 全回線作動試験

この試験は、放火監視回路が正常であるか否かを自動的にチェックする試験です。
試験を開始すると1～10回線までの放火監視回路を順次チェックし放火表示をおこないます。
全回線の監視回路が正常な場合、受信盤の表示灯試験（全点灯）をおこないます。
（この試験では、移報信号の出力、本体ブザーの鳴動はしません。）

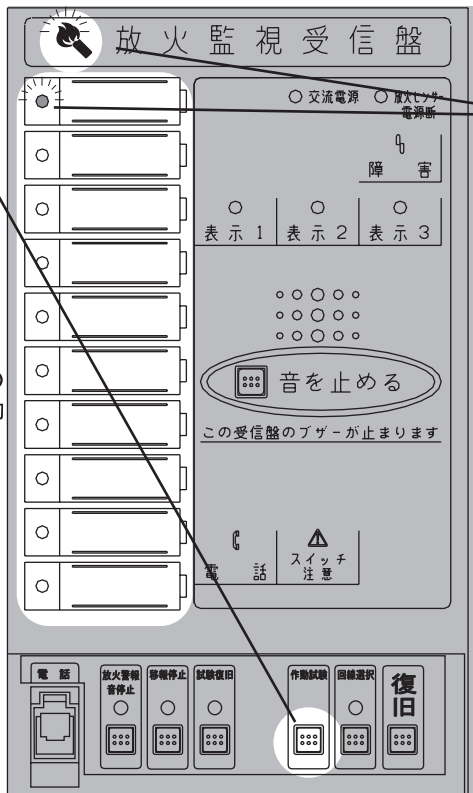
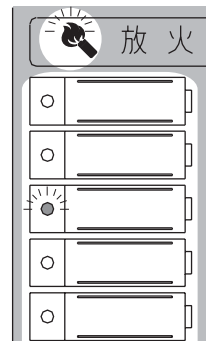
- ① 作動試験スイッチを押します。
（回線選択はおこないません。）



スイッチを押すと自動的に下記の状態になり、試験が終了すると自動的に解除されます。

本体ブザー停止
移報停止
試験復旧

- ② 放火代表灯が赤く点灯し、地区表示灯1から10まで順番に赤く点滅します。



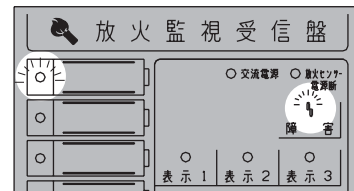
③

正常の場合

すべての表示灯が3秒間点灯し試験終了します。

異常の場合

異常回線の地区表示灯が黄色に点滅し、障害代表灯が黄色に点灯します。
（P. 18参照）



以下の状態では試験を実施できません。

- 放火警報中
- 放火センサー線路障害中
- ヒューズ断中
- 復旧中(1秒間)

- 諸表示信号が入力されているときに試験を実施すると、ブザーが正常に鳴動しません。
- この試験終了時、自動的に復旧動作を行います。
（障害警報、または諸表示信号入力時のブザーを「音を止める」で停止させていた場合は、再び本体ブザーが鳴動します。）
- 試験中は各スイッチの操作をしないでください。

④ 個別作動試験

この試験は、個別に放火監視回路が正常であることをチェックすると同時に、他の設備への移報出力チェックをおこなうための試験です。

⚠ 注意

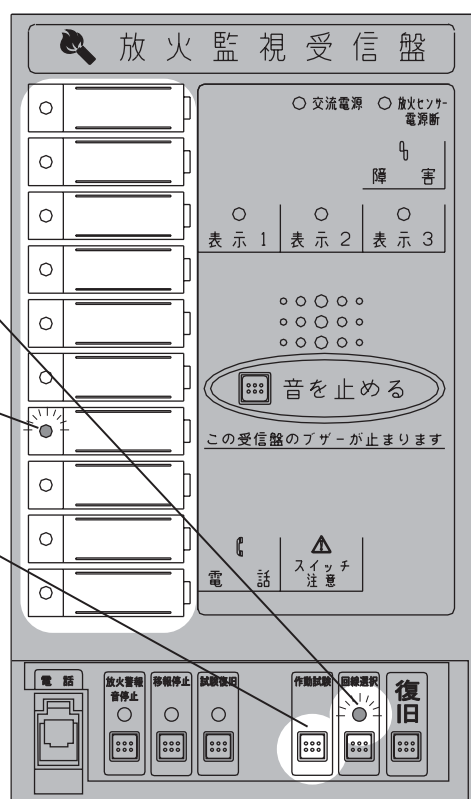
- ❗ 個別作動試験では、実際の放火発生時と同様に移報信号の出力をおこない、本体ブザーが鳴りますので必要に応じて停止設定をおこなってください。(P.15参照)
試験終了後は各停止設定を解除して平常状態に戻してください。

- ① 回線選択スイッチを押して試験をしたい回線を選びます。
回線選択灯が赤く点灯します。



- ② 選択された地区表示灯が黄色に点灯します。

- ③ この状態で作動試験スイッチを押すと、放火警報状態になります。



■ 試験時や保守点検時便利な機能について ■

本製品には、手動試験時、保守点検時に役に立つ便利な機能を多数搭載しています。

● 停止設定について

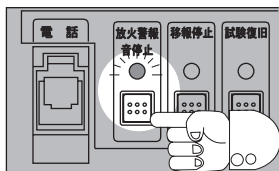
停止設定を行うとスイッチ注意灯が点滅します。

⚠ 警告

- ⊘ 保守点検以外で下記スイッチを停止設定にしないでください。
放火発生時に警報や移報信号出力が出来ず避難、消火活動が遅れる危険があります。

放火警報時の本体ブザー音を完全に止めるとき(放火警報音停止)

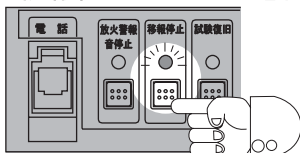
- ① 小扉内の放火警報音停止スイッチを押します。 ② 放火警報音停止灯が点灯し、スイッチ注意灯が点滅します。



再度、放火警報音停止スイッチを押すと停止が解除されます。

他設備への移報信号出力を止めるとき(移報停止)

- ① 小扉内の移報停止スイッチを押します。 ② 移報停止中灯が点灯し、スイッチ注意灯が点滅します。



再度、移報停止スイッチを押すと停止が解除されます。

⚠ 注意

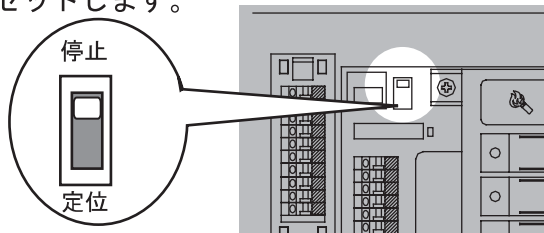
- ! お客様の仕様によっては、他設備への移報信号が移報停止スイッチを操作しても停止しない場合があります。他設備への移報信号を停止したい場合の接続については、工事説明書を参照してください。

障害警報、諸表示信号警報の音響を完全に止めるとき(警報音響停止)

⚠ 注意

- ❗ 保守点検以外では停止(ON)側にしないでください。このスイッチを停止(ON)側にすると各種障害音響、諸表示警報音響が鳴動しないため、障害発生や諸表示入力の発見が遅れる危険があります。
(諸表示音響なしで平常運用される場合には諸表示音響あり/なし設定により行ってください。詳細は工事説明書参照。)

- ① 受信盤内部の警報音響停止スイッチを停止側にセットします。
- ② 盤面のスイッチ注意灯が点滅します。



受信盤内部の警報音響停止スイッチを定位側に戻すと停止解除されます。

●試験復旧について

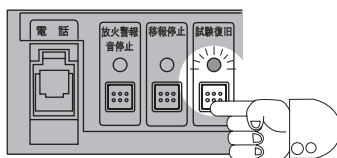
放火センサーの作動試験をするとき、あらかじめ試験復旧状態にしておくと自動的に復旧動作をおこなうので復旧スイッチを操作する手間が省けます。

なお、試験復旧には通常用、特殊用の2つのモードがありますので放火センサーの種類に応じて選択してください。

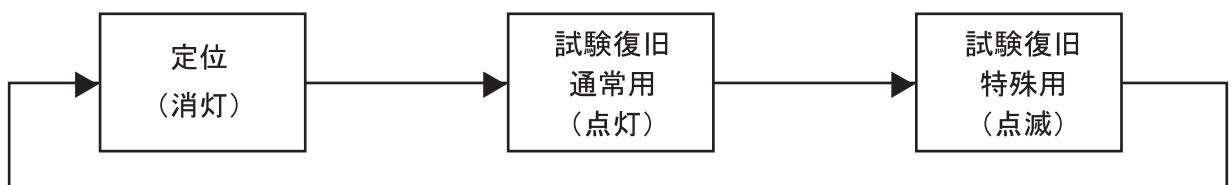
通常モード : 放火センサー作動後、2秒後に自動的に強制復旧します。(自己保持型放火センサーの復旧)

特殊モード : 放火センサーが復旧すると自動的に復旧します。

- ① 試験復旧スイッチを押します。
- ② 試験復旧中は、試験復旧中灯が点滅・点灯し、スイッチ注意灯が点滅します。



試験復旧スイッチを押す度に下記のようにモードが切り替わります。
モードは試験復旧中灯で確認できます。



- 試験復旧状態は、放火警報が発生せずに最後のスイッチ操作から約2時間経過後、自動的に解除されます。
(解除時間は、あらたに放火警報が発生するか、スイッチ操作がある度に1時間ずつ更新されます。)
- 試験復旧中は、放火センサー線の断線障害が発生すると即時、障害警報をおこないます。
- 試験復旧スイッチを押すと自動的に復旧動作をおこないます。
(障害警報、諸表示信号警報が一旦音響停止中の場合、再び本体ブザーが鳴ります。)

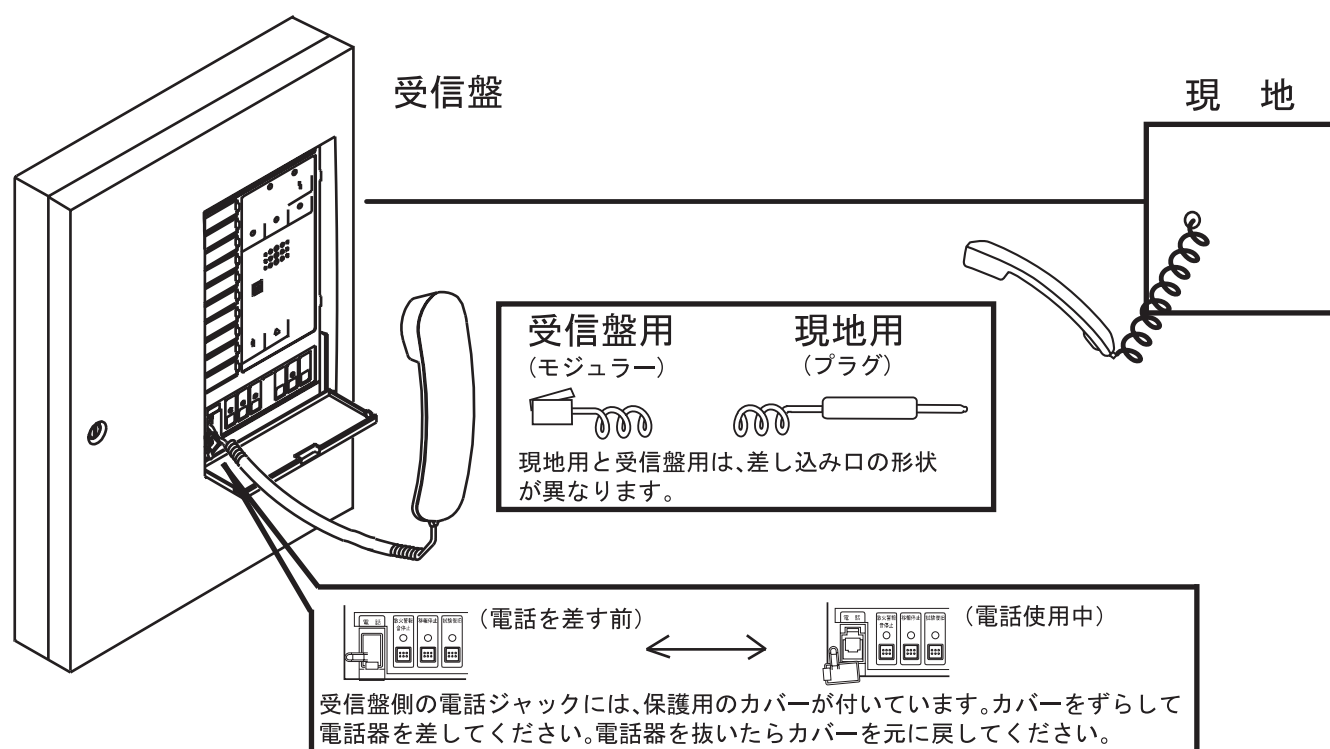
●電話について

本製品は、専用の電話器を使用して受信盤と現地間で通話することができます。

* 電話は特注で利用できる機能です。標準品では使用することが出来ません。

⚠ 注意

⚠ 受信盤用電話器と現地用電話器はジャックの形状が異なり、それぞれ専用となっていますので注意してください。専用電話以外では通話することはできません。



通話方法1

- ① 現地のジャックに電話器を差すと受信盤の本体ブザーから電話呼び出し音(ピピピピ)が鳴ります。
- ② 受信盤用電話器を受信盤の電話ジャックに差すと電話呼び出し音が止まり、現地と通話できます。

通話方法2

- ① まず、受信盤用電話器を受信盤の電話ジャックに差しておきます。
- ② 現地の電話器が差されると受信盤の本体ブザーから電話呼び出し音が鳴ります。
- ③ 「音を止める」と書かれたスイッチを押すと電話呼び出し音が止まり通話ができます。
- ④ 以後、現地で電話器の抜き差しがあるたびに電話呼び出し音が鳴りますので、「音を止める」のスイッチでブザーを停止して通話してください。
- ⑤ 通話が終了したら、受信盤用電話器を電話ジャックから抜いてください。

■ 電話呼び出し音は、受信盤用電話を電話ジャックに差していないと「音を止める」のスイッチで止めることはできません。

■ 施工について ■

施工方法の詳細については、工事説明書を参照してください。

● 設定スイッチについて

本製品の、受信盤内部スイッチは、施工用ですので平常時は操作しないでください。

注意

設定スイッチは通常運用時には操作しないでください。各設定スイッチは設置時建物の運用に合わせて設定したものでむやみに変更すると支障がでる恐れがあります。

● 電源投入時の状態について

本製品は、電源投入時には、下記のスイッチが停止状態で立ち上がります。

施工が終了し、配線・状況等を確認したら必ず停止を解除し、スイッチ注意灯が消灯することを確認してください。

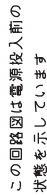
① 放火警報音停止

放火警報音停止スイッチを押すと解除できます。

② 移報停止

移報停止スイッチを押すと解除できます。

項 目	確 認 事 項	対 処
交流電源灯が消えている	①受信盤内部のAC電源端子に100V印加されていますか？ ②ACスイッチがOFFになっていませんか？ ③受信盤内部のAC100V用ヒューズ（F1, F2）または主回路用ヒューズ（FC）が切れていませんか？	①本設備用のブレーカがOFFになっていないか確認し、ブレーカをONにしてください。 ②ACスイッチをONにしてください。 ③原因を確認し、ヒューズを交換してください。ヒューズの交換については、工事説明書を参照してください。
スイッチ注意灯が消灯しない （点滅したまま）	①盤内の保守用スイッチが作動（ON）のままになっていませんか？	①下記のスイッチがONになっていないか確認し、OFFにしてください。操作方法については、P. 15, 16参照してください。 小扉内 試験復旧、移報停止、放火警報音停止 （ONのときは、スイッチ上部の表示灯が点灯します） 盤内 警報音響停止
不審火がないのに放火警報する （放火警報状態が復旧できない）	①放火センサー線が短絡、または絶縁劣化していませんか？ ②放火センサーの近くで溶接等の作業が、おこなわれていませんか？	①放火センサー線を調べて短絡や絶縁劣化している箇所を修復してください。 ②放火センサーは溶接時の火花等で作動する場合があります。放火センサーの近くで溶接等の作業はおこなわないでください。
障害代表灯が黄色点灯 ＋地区表示灯が黄色点滅	①点滅している地区は空き回線ではないですか？ ②点滅している地区の放火センサー線に、終端抵抗10kΩが接続されていますか？ ③点滅している地区の放火センサー線は、断線していませんか？	①空き回線設定をおこなってください。詳細は工事説明書を、参照してください。 ②感知器線路の終端に付属品の終端抵抗10kΩを確実に取り付けてください。 ③放火センサー線路を調べて断線している箇所を修復してください。
障害代表灯が黄色点灯 ＋放火センサー電源断灯が赤色点滅	①受信盤内部の放火センサー用ヒューズ（FS1, FS2）が切れていませんか？ ②放火センサーの電源電圧が低下していませんか？	①放火センサー電源用（V□-VC□）の線路を調べて短絡している箇所を修復して下さい。原因を取り除いた後にヒューズを交換してください。 ②放火センサー用電源電圧（REG1）が故障している又は、寿命により電圧が低下している可能性があります。弊社又は、取扱店に至急ご連絡下さい。
障害代表灯が黄色点灯 （＋盤内のヒューズ断灯が点灯）	①受信盤内部の付属電源1用ヒューズ（F1）が切れていませんか？	①付属電源1用（I+, I-）の線路を調べて短絡している箇所を修復してください。 使用している付属電源1容量が定格以内であることを確認してください。（定格 計100mA） 原因を取り除いた後にヒューズを交換してください。
表示灯が点灯しない	①受信盤内部の付属電源2用ヒューズ（FP）が切れてませんか？	①付属電源2用（PL+, PLC-）の線路を調べて短絡している箇所を修復してください。 接続している付属電源2容量が定格以内であることを確認してください。（定格 400mA）
障害警報、諸表示警報の音響を「音を止めるスイッチ」で停止したのに再度鳴り出す	①あらたに障害警報、諸表示警報が発生していませんか？	①あらたに障害警報、諸表示警報が発生すると再度警報音響を鳴動して注意を促すようにしています。異常ではありません。再度「音を止める」のスイッチを押してください。 （あらたに障害、諸表示入力が発生し、復旧した場合でも再度警報音響が鳴り出します。）



※印の回路は実装してない場合があります

仕様表

商 品 記 号		PCP-10
回 路 方 式		RFA-A24A式
種 別		放火監視機器・放火監視受信装置
型 式 番 号		品評放第30～1号
主 電 源		AC100V 50／60Hz
定 格 容 量		160VA
回 路 電 圧		放火センサー回路電圧 DC24V
機器 接続 個数 及び 出力 容量	接続対象 放火センサー	接続対象放火センサー：UVS-06CN 最大接続数 10個／1回線 同時最大鳴動数 13個／5回線 (14個以上の鳴動はヒューズが溶断することがあります) 放火センサーが最大接続（50個／5回線）された場合、 5回線毎（V1～V5、V6～V10）に鳴動できる最大数です。
	付 属 電 源 1	DC24V 100mA（脈流）
	付 属 電 源 2	DC24V 400mA（脈流）
主 音 響		ブザー DC24V 25mA
外 部 移 報	放 火 代 表	無電圧a接点 1点, DC30V-1A 無電圧c接点 1点, DC30V-1A
		移 報 停 止
	回 線 移 報*	無電圧a接点10点, DC30V-1A
	表 示 入 力	
外 部 配 線 抵 抗		放火センサー線（L□）-（C）50Ω以下
終 端 抵 抗		10kΩ 1W以上
使用温度範囲		0℃～40℃（結露しないこと）
保存温度範囲		-10℃～50℃
外 形 寸 法		W300×H400×D70（mm）
質 量		約5kg
材 質		SPCC 板厚0.8mm（扉） 1.6mm（背板）
色 彩		マンセル値2.5Y9／1（半ツヤ）近似色
付 属 品		取扱説明書, 工事説明書, 終端抵抗（10本）, ヒューズ抜き
予 備 品		ヒューズ各3本

*特注で移報基板を追加した場合に使用できる機能です(盤の外形が変わります。)標準では使用できません。本機器への接続端末機器については販売店にご用命下さい。

品質保証

機器納入後1年間は無償修理致します。但し、下記の場合は有償とさせていただきます。

1. 機器を改造して使用されたとき。
2. 誤った使用をされたとき。
3. 自然災害により故障したとき。
4. お客様の都合による移設のために故障したとき。

株式会社 日本防犯システム

〒105-5111 東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービルディング南館11階

TEL.03-5860-1927 FAX.03-5860-1928

(2018.04) 2-8-000-6981-153